

石碑に刻まれた 古代の記憶

ユネスコ 「世界の記憶」 に登録

世界が認めた 千三百年前の古代碑

高崎市に現存する上野三碑こうのうげさんびと呼ばれる3つの古代碑が、2017年にユネスコ「世界の記憶」※1に登録されました。上野三碑は、いずれも飛鳥・奈良時代に造立された山上碑・多胡碑・金井沢碑からなる3つの石碑の総称で、古代の「多胡郡（現在の高崎市吉井地域、南八幡地区周辺）」に所在しています。それぞれの碑文からは1300年前の地方行政制度のあり方、氏族のつながり、仏教思想の広がりなど多くのことが明らかになりました。このような重要性から、三碑はいずれも国の特別史跡に指定されています。

石碑を建てる文化は、中国から朝鮮半島を経由し、飛鳥時代にもたらされたものです。そのため、三碑の造立には渡来人（新羅系）の影響があったものと考えられています。

このように、上野三碑は古代東アジアの文化の受容と伝播を示す重要な記録物として、世界的にも重要な文化遺産なのです。

注釈

※1 世界遺産、無形文化遺産に並ぶユネスコ主催の3大遺産事業の一つです。古文書や書物などの歴史的価値のある記憶物を保存、後世に引き継ぐことが目的。ゲーテの直筆文学作品やアンネの日記などが登録されています。

多胡郡の範囲

半径1・5km内に古代の石碑が集中

上野三碑と呼ばれる石碑、そのすべてが古代多胡郡に立っています。古代において「文字を刻んで碑を建てる」ことは進んだ渡来文化のひとつでした。石碑が集中する多胡郡は豊かな文化や高度な技術が根付く土地だったのです。

金井沢碑
かないざわひ

山上碑
やまのうえひ

多胡碑
たご

たごひ
多胡碑



711年、この地に新たに「多胡郡」を設置することが記された建郡記念碑です。当時の政府高官の名を刻むことで、建郡の権威付けを図っていると考えられます。日本の正史である『続日本紀』の記述とも一致する貴重な事例です。

やまのうえひ
山上碑



上野三碑

681年、放光寺の僧・長利が母の黒壳刀自の供養と自身の顕彰のために造立。碑文は全て漢字で書かれています。現在につながる日本の漢字の使用法が確認できる重要な史料です。



山上古墳

山上碑の東に隣接する直径15mの円墳。山上碑を建てた長利の母「黒壳刀自」もここに埋葬されたと考えられている。

かないざわひ
金井沢碑



726年に、三家一族の繁栄を祈って建てられました。碑文には9人の人名があり、そのうち4人が女性です。家族のつながりに女性が大きな役割を果たしていたことが伺えます。群馬という地名が表された県内最古の史料でもあります。

守り伝えられた 古代の記憶

大和を中央政府とした古代国家が完成するのが飛鳥・奈良時代。この頃から国家創成の過程を中国にならい文字で記録するようになりました。

行政区分についても中国を参考にし、地方のもっとも大きな区分を国、その下を郡、里と定めました。「金井沢碑」にある上野国※2、群馬「郡下賛郷高田里」という住所からは、当時の都である奈良から400km以上離れた高崎まで中央の統治が及んでいた様子が分かります。

また、「山上碑」を建てた長利は、佐野三家という中央政府と強く結びついた名門の出です。この地域の豪族が当時の先進思想である仏教に帰依したことが分かります。

さらに「多胡碑」からは、先進的な渡来系技術が根付いた工業地帯を治めていたのが「羊」と呼ばれる渡来系の人物だったことも推定されます。

多くの古代の記録が失われた中、守り伝えられた上野三碑は、かつての社会の様相を現代に伝える古代東国史の大変重要な史料といえるでしょう。

※2 上野国は、現在の群馬県

発見された 古代多胡郡の痕跡

多胡碑の約350m南に史跡上野国多胡郡正倉跡があります。ここは古代多胡郡の郡家（郡役所）の遺跡で、正倉と呼ばれる倉庫跡が発見されました。正倉とは、郡内で税として集めた米を収納した公的な倉庫のことを指します。多胡郡正倉跡では東西16・8m、南北7・2mの巨大な高床式倉庫が見つかっており、8世紀中頃に創建された総瓦葺の屋根構造を持つ格式の高い倉庫（法倉）であると考えられます。法倉の存在は国家的政策により設置された多胡郡の歴史的特性を反映しています。



発見された法倉の様子